

令和3年度 大阪府立旭高等学校 第2回学校運営協議会

日時：令和3年9月29日（水） 午後2時00分～午後4時10分

場所：大阪府立旭高等学校 会議室

委員：校長 森田 里江子

会長	森 勇太	関西大学 准教授	
副会長	辰巳 千佳子	大阪市立旭陽中学校 校長	
	梅原 直人	大阪市立高殿小学校 校長	
	佐藤 章子	平成30、31年度PTA副会長、旭友会	
	上江州 弥生	令和2年度PTA会長、旭友会	
	寺前 里美	大阪府立旭高等学校PTA 副会長	所要のため欠席

1. 校長挨拶、学校近況報告

○GIGA スクール構想として、9月に生徒1人一台ずつクロムブックが配布された。授業での利用はこれから順次進めていく予定である。授業以外でも、生徒会が役員選挙にさっそく用いたり部活動で利用するなど、生徒も新しいアイデアを生み出して利活用している。

○コロナ第5波では、本校も7月末から4回にわたり、1～2日間の臨時休業を余儀なくされた。臨時休業中は、Google クラウドルームを使い、あらかじめ決めておいた臨時休業時の時間割に沿って、課題の指示や授業解説動画を配信し質問を受け付けるなど、双方向のコミュニケーションを保障しながら学びを継続した。

【6限 授業見学】 ①3年「古典」 ②2年「生物」 ③1年「英語表現」 ④1年「社会と情報」

2. 学校近況報告（つづき）

〈学校行事について：生徒会担当より〉

○今年度の体育祭・文化祭は、教員・生徒が考えを持ち寄って準備や実施の方法・時間を工夫し、無観客など感染防止対策を行って実施できた。保護者に見てもらえなかったことは残念だが、生徒は達成感を持てたと感じている。

○まず、体育祭は、当初の予定から延期し3年生の進路に影響しないぎりぎりの期日として7月19日（月）の開催となった。大阪府立体育館（エディオンアリーナ）で、種目や時間を短縮して行った。

○文化祭については、今年度は1日開催とした。前日祭も直前の臨時休業などで変更を強いられた。そのような制限の多い中でも生徒は考え、文化祭を盛り上げるため工夫していた。来年度も工夫を凝らして開催できるように積極的に動いていきたい。

〈国際教養科・国際文化科の取り組みについて：図書教養部より〉

○フランスから受け入れていた留学生が8月に帰国し、その後は新たな受け入れはない。

○語学研修は、昨年度につづき本年度も中止となった。代替の研修として、本年 7 月に英語インテンシブ講座（ネイティブスピーカーによる研修）を実施し、23 名の生徒が参加し、SDGs について学びの場となった。また、1 年生の英語授業で、オーストラリアの姉妹校とオンライン交流を行なった。10 月にも実施予定である。2 年生の韓国朝鮮語選択者と韓国の高校とのオンライン交流に向けても調整中である。

○6 月に、旭高校を含む日本の 5 高校と台湾 5 大学との連携協定を締結した。

○2 年生の第二外国語では恒例となっている暗唱大会を実施し、代表者は国際関係学科を持つ府立高校 10 校が参加して開催されるインターナショナルフェスティバルに出場する。

○3 年生は、ポルトガル大使館から講師を招き、EU について学ぶ予定である。

○新たな取り組みとして、国際文化・教養科の各教室に英語の多読用書籍を合計 186 冊設置した。

○JICA 長期研修員（外国人）を講師に招き、講演を行うことも計画している。

〈進路指導状況について：進路指導部より〉

○自らの進路実現へ向け、ほぼ計画通りに進路行事を行っている。

○2 学期には、1 年生はクラスごとに大学見学会、2 年生は大学教員・職員による模擬授業を行う予定である。

○3 年生は、いよいよ受験時期となり一生懸命勉強に励んでいる。外部模試にも意欲的に参加し、大学入学共通テストにも 108 名が申し込んだ。

○指定校推薦により進学する生徒は例年より多い。現 3 年生は、新型コロナの影響で昨年オープンキャンパス等の機会が少なかった状況があり、情報不足による不安から指定校推薦を希望する生徒が増えたのではないかと推測している。一方で一般入試を視野に入れ、粘り強く進路実現に向けて努力している生徒も多く、学年全体が意欲的な雰囲気である。

○ベネッセの「スタディーサポート」の学年別分析会を実施し、教員への情報共有やフィードバックの機会にもなっている。

3. 協議・提言〈「旭で伸ばす」の目標に向けて〉（司会：協議会会長 ●委員 □学校側事務局員）

●中学校の生徒たちは、希望を持って旭高校をめざしている。生徒たちのあこがれの学校であってほしい。コロナ対策を行いながらの授業運営、学校運営であるが、できないことを嘆くのではなく、できることは何か、どうすればできるかを工夫して行ってほしい。

●生物の授業では、素晴らしい板書だった。プリントを使って授業を進めていた。もう少し記述欄があってもいいのかもしれないと思った。実生活に結びついた内容がとてもよかった。また、古典の授業では、クロムブックを活用して生徒の意見や疑問点を共有し、学びを深いものにしていた。講義形式の授業から変わってきていると感じた。端末を取り入れることで、子どもたちの学習意欲が高まっていると思う。協同する学びの大切さを感じた。

●子どもたちは、困難を克服する力を持っている。コロナが収まっても元の学校には戻れないと思うので、そこを意識して授業をする必要があるのではないだろうか。

●授業の見学を楽しみにしていた。パソコンを使っているのが新鮮だった。生活に密着した内容がよかった。また、国際文化・教養科の取り組みの報告を聞き、非常に魅力的に思えた。

●体育祭について、毎年体育館を使用するのは予算等の観点から可能なのか。

□生徒1人300円程度の予算である。

●大阪府立体育館を選んだのはどのような理由か。

□他校で開催した例があった。費用も、府立の体育館であることから、比較的高い空調費を含んでも学年費の予算内で収めることができた。また、雨天延期を想定する必要がなく、熱中症の危険もない体育館での実施とした。しかし、グラウンドと比較すると狭いため、実施競技が限定してしまうといった点や、生徒が慣れておらずけがにつながるおそれもあるなどの課題もあった。今年度はけが人はほとんどいなかったが、例年通りの競技・時間で実施するとなると、多角的に検討する必要がある。

●漢文の授業の小テストをしていたが、(受験科目と関係ないからか)手が止まっている生徒もいてもどかしい気持ちになった。良い授業だったので、「授業を大事にしてほしい」と生徒に声かけをしたくなった。クロムブックを使用した授業で、先生が工夫をされているなど感じた。情報の授業では、知識だけではなく、情報社会のモラルの部分についても触れているのがよかった。

●台湾大学との連携協定について、台湾との交流をさらに進めていただきたいが、どのような経緯で実現したのか。

□台湾留学サポートセンターが間に入って実現した。旭高校は台湾への修学旅行の経験もあり、生徒へのよりよい情報提供のために連携協定を締結するに至った。生徒の進路選択の幅が広がることを期待している。

●端末の使い方が難しいと思うが、教員への研修などはあったのか。また、パワーポイントを使用した授業について、大学では批判的な教員もいる。効果的な使用方法などを共有する機会はあるのか。

□研修については、これから随時行っていく予定である。スキルに個人差もあり、最低限使用できるよう足並みをそろえていく必要がある。

□パワーポイントの授業での使用についてだが、生徒に提供する情報は少しずつ見せたほうが効果的だと思う。1枚のスライドに情報を詰め込みすぎるのは効果的ではないと感じている。

●情報の授業では比較的使いやすいと思うが、古典などの教科書に立ち返らなければならない教科は、使い方を工夫しなければ目移りして大変だと思う。早い時期に端末機器を導入した兵庫県の学校では、勉強を苦手としている生徒たちの理解度があがったという成果もある。

●印象的な他校の授業に以下のようなものがある。①国語：「走れメロス」を映画にし、クラウドファンディングをしてお金を得るにはどうすればよいか考える。②社会：世界の国々について、日本との違いや歴史などを調べる。ジグソー学習を取り入れ、共有することで知らない国のことをたくさん学ぶことができる。自分の意見を他人と共有することで深めていき、更新していくことが大事だと感じている。将来必要な力であるため、ぜひ養ってもらいたい。

4. 校長謝辞

○委員の皆様からいただいたご助言・ご提言を教職員で共有し、今後の学校運営に生かしてまいりたい。